

国際ジェンダー学会 2025 年大会ご案内（第 3 報）

2025 年 10 月 4 日（土）・10 月 5 日（日）

フェリス女学院大学緑園キャンパス

*要旨集は参加申込者に 9/21 以降に送付予定

大会実行委員長挨拶

国際ジェンダー学会 2025 年大会が、10 月 4 日（土）・5 日（日）にフェリス女学院大学緑園キャンパスにて開催されます。学会大会は、学術研究の意義と可能性を信じる人々が集い交流する、他では得難い機会です。そのことを尊重するすべての方を、心から歓迎いたします。

今年の大会では、個人発表を 1 日目の午前・午後に分けて開催し、シンポジウムを例年のように大会両日にわたって企画いたしました。個人発表はより多くの方々により多くの個人発表を見聞きしていただくため、同時時間の部会を 4 つに減らしました。個人発表 I は 10 月 4 日（土）10 時～12 時、個人発表 II は同日 10 月 4 日（土）13 時 35 分～15 時 35 分の二枠での実施となります。ますます活発な研究交流が生まれることでしょう。

また、10 月 4 日（土）15 時 45 分～17 時 45 分までは、シンポジウム I「日本で考えるフェミニズムとコロニアリティ」を開催します。近年、日本を含め世界の多くの地域において、近代以降の世界において不可視化・抑圧されてきた立場／視角からの既存のフェミニズムに対する異議申し立てや、それに基づいた議論が再び活性化しています。本シンポジウムでは、フェミニズムに内在する植民地性を現代的状況において考察する上で重要な概念の整理を共有したうえで、日本の文脈からフェミニズムと植民地性について改めて考えます。

翌 10 月 5 日（日）には 13 時 00 分～15 時 30 分まで、ラウンドテーブルディスカッションが 8 会場で開催されます。各グループの研究の蓄積と新たな成果とを踏まえ、じっくり議論する場となることでしょう。

続いて同日 15 時 45 分～17 時 45 分までシンポジウム II「<老いる主体>としての移住女性と日本社会」を開催します。日本で働き、暮らす移住女性は、自身の高齢期を迎える中でそれぞれどのような課題に直面し、またそれを個人的・集合的にどのように乗り越えようとしているのか。植民地期から現在まで世代を重ねてきた在日コリアンの女性たち、DV や家族問題を経たタイ・フィリピン出身の女性たちの経験から導かれる課題は、日本社会において高齢期を生きる「多様な女性たち」を取り巻く共通の課題を映し出すものでもあります。本シンポジウムでは、移住女性の複層的な「古い」の局面における連帯と抵抗の実践を通して、あらためて移民社会日本のあり方をジェンダーとライフサイクルの視点から考えたいと思います。

総会は 1 日目の 10 月 4 日（土）12 時 10 分～13 時 20 分、懇親会も同日 18 時～19 時となります。

本大会に参加して下さる皆さま、大会運営を担って下さる実行委員会の皆さま、アルバイトの皆さまに、これまでの準備に対し心よりお礼申し上げます。大会が成功裏に終わるまで、引き続きよろしく願いいたします。

例年同様、本年も、国際ジェンダー学会倫理綱領を遵守しつつ、真摯かつ闊達な研究交流の場となる大会となるよう、励んでまいります。参加者の皆さまにおかれましても、どうぞご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

2025 年 8 月

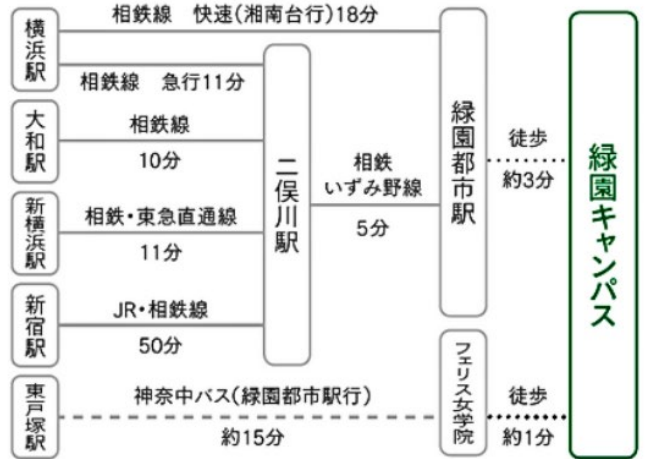
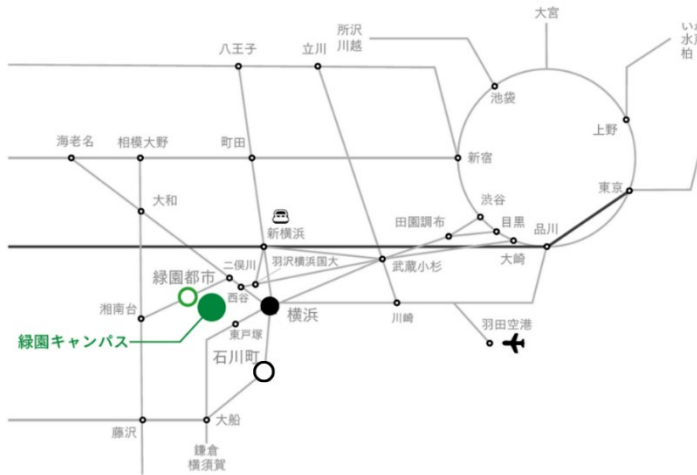
国際ジェンダー学会 2025 年大会実行委員長

小ヶ谷千穂・平野恵子

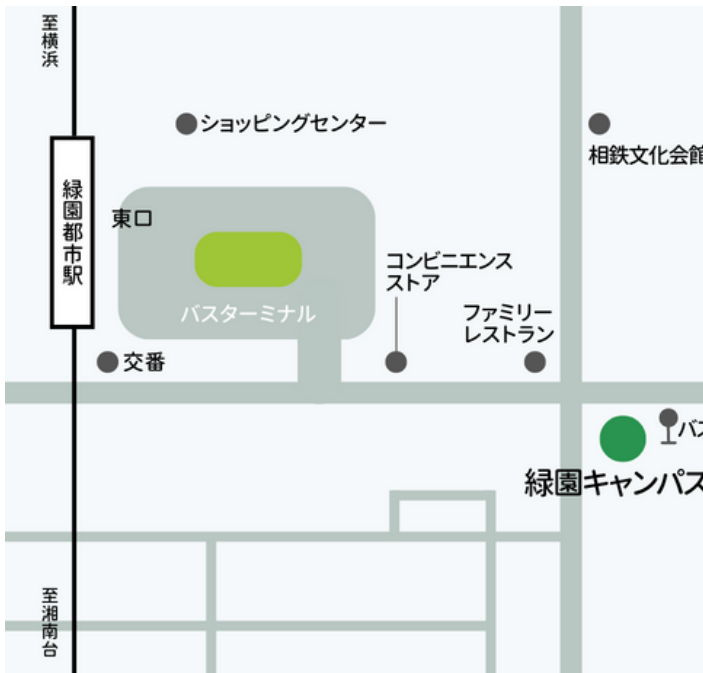
国際ジェンダー学会 2025 年大会 会場までのご案内

- 【会場】** フェリス女学院大学緑園キャンパス・CLA 棟 （懇親会：学生食堂「アンデレ」）
受付:CLA 棟 2 階
 10月4日(土)9:30~開始、10月5日(日)12:30~開始
- 【所在地】** 〒245-8650 神奈川県横浜市泉区緑園4丁目5-3 フェリス女学院大学緑園キャンパス
- 【アクセス】** 相鉄いずみ野線「緑園都市駅」下車 徒歩約3分

○交通アクセス



○緑園都市駅から会場へのアクセス



★交通アクセス★



キャンパス案内図

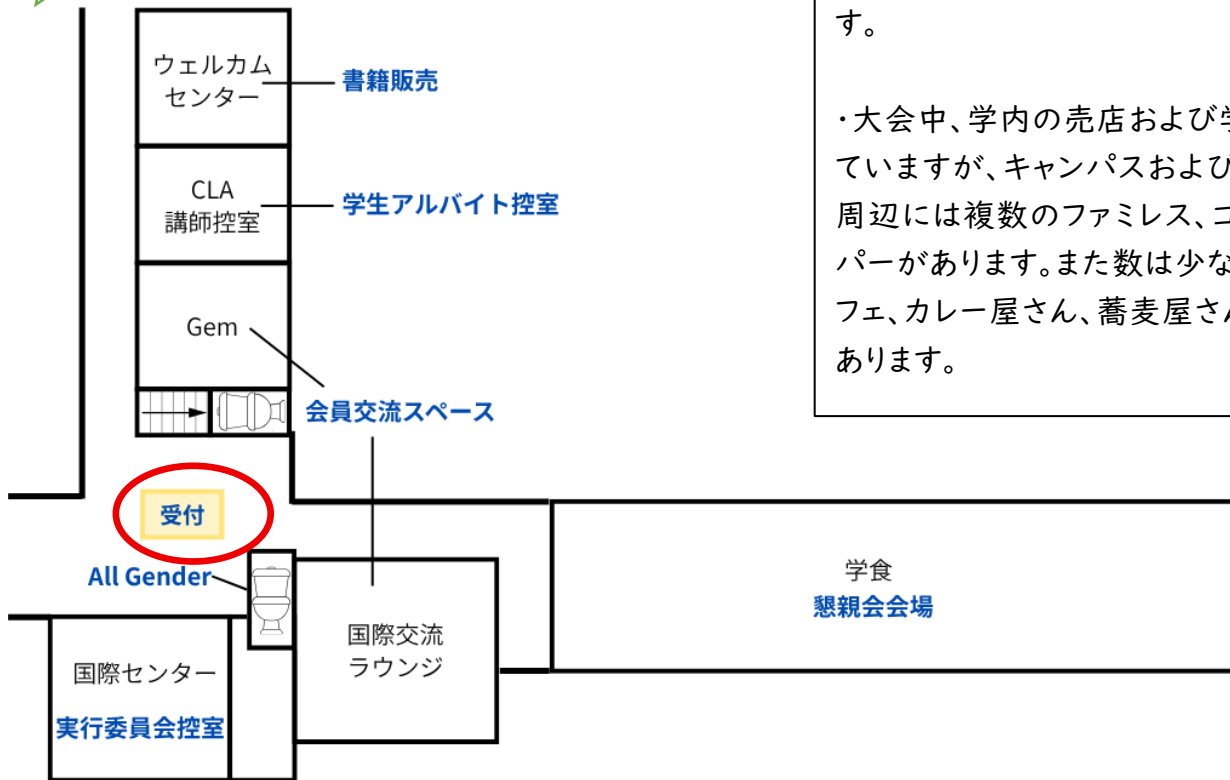


会場:CLA 棟
受付は2階

- ①A1号館
- ②Bチャペル、保健室
- ③C5号館
- ④DCLA棟
- ⑤E学食
- ⑥F4号館 (F cafe)
- ⑦Gキダーホール
- ⑧H図書館

緑園都市駅⇒

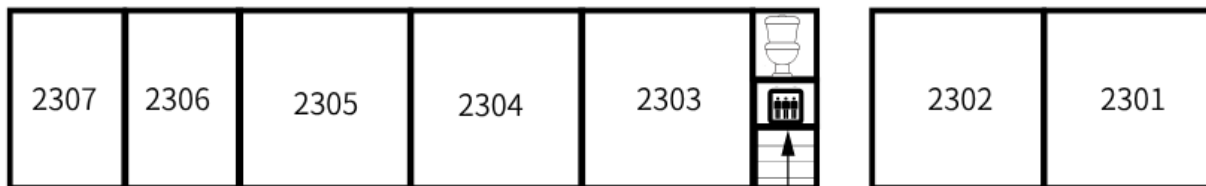
CLA棟2階



- ・キャンパスの入口は正門 1 か所です。守衛所には大会参加者およびスタッフ全員の名簿を事前に渡します。
- ・個別に守衛所でお名前を確認することはありませんが、もしも守衛から声がかかりましたら、「国際ジェンダー学会大会参加者」であることをお伝えください。
- ・正門近くに待機している大会スタッフが随時大会受付 (CLA 棟 2 階) にご案内します。
- ・大会中、学内の売店および学食は休業していますが、キャンパスおよび緑園都市駅周辺には複数のファミレス、コンビニ、スーパーがあります。また数は少ないですが、カフェ、カレー屋さん、蕎麦屋さんがそれぞれあります。

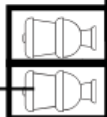
会場配置図

CLA棟3階



5号館

男性トイレ



10月4日(土)

個人発表 I (10:00-12:00) : A 2301、 B 2302、 C 2404、 D 2405

個人発表 II (13:35-15:35) : E 2301、 F 2302、 G 2404

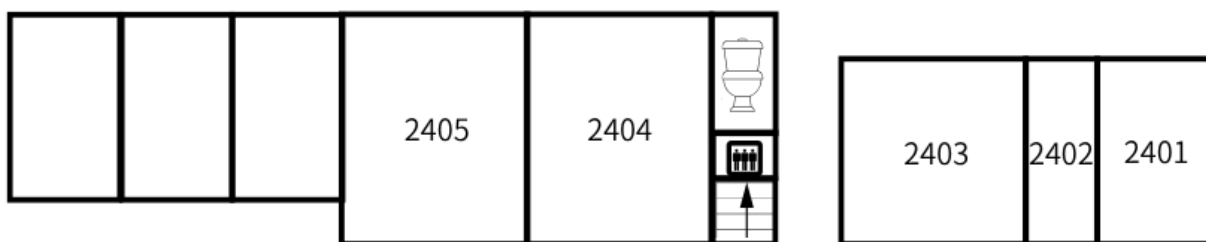
10月5日(日)

ラウンドテーブル(13:00-15:30)

① 2301、 ② 2302、 ③ 2304、 ④ 2305

⑤ 2306、 ⑥ 2403、 ⑦ 2404、 ⑧ 2405

CLA棟4階



学内施設

- ・ オールジェンダートイレ／バリアフリースペースは、CLA 棟 2 階にあります。
- ・ 自動販売機は、CLA 棟 2 階国際交流ラウンジ前、およびキダーホール入口ほか学内に複数箇所あります。
- ・ Wi-Fi は、eduroam が使えます。また、参加申込者には当日ゲスト用 ID とパスワードをお伝えする予定です。
- ・ 会員交流スペースの一つは、Gem (ジェンダースタディーズセンター) です。ぜひご見学ください。

国際ジェンダー学会 2025 大会タイムテーブル

【10月4日(土) 1日目】

- 9:30- 参加者受付開始 (CLA 棟 2 階)
- 10:00-12:00 個人発表 I (CLA 棟 3 階 A 2301、B 2302、
CLA 棟 4 階 C 2404、D 2405)
- 12:10-13:20 総会 (キダーホール)
- 13:35-15:35 個人発表 II (CLA 棟 3 階 E 2301、F 2302、CLA 棟 4 階 G 2404)
- 15:45-17:45 シンポジウム I (キダーホール)
- 18:00-19:00 懇親会 (学生食堂「アンデレ」)

【10月5日(日) 2日目】

- 12:30- 参加者受付開始 (CLA 棟 2 階)
- 13:00-15:30 ラウンドテーブル
(CLA 棟 3 階 ①2301、② 2302、③ 2304、④ 2305、⑤ 2306
CLA 棟 4 階 ⑥ 2403、⑦ 2404、⑧ 2405)
- 15:45-17:45 シンポジウム II (キダーホール)
- 17:45 閉会

1 日目: 10月4日(土) 個人発表 I

10月4日(土) 10:00~12:00
CLA 棟 3 階: A 2301、B 2302
CLA 棟 4 階: C 2404、D 2405

個人発表<グループ A>: CLA 棟 3 階 2301

座長: 島直子 (独立行政法人国立女性教育会館)

<発表者>

1. 池田恵子 (静岡大学)
「男女共同参画の視点による災害対応の実践を促進する要因—令和 6 年能登半島地震の被災自治体への調査から—」
2. 小川真理子 (東京大学)、柴田美代子 (元東京ウィメンズプラザ)
「2022 年度~2023 年度全国調査からみる「婦人相談員」の労働状況、やりがいと困難—売春防止法から女性支援法を視野にいれて」
3. 酒井秀翔 (東京大学大学院)
「公務出張にみられるジェンダーギャップ—静岡県「職員の出張旅費に係る情報の公表」データの分析—」
4. 村上りん (北海道大学大学院教育学院)
「接待を伴う飲食店で働く母親の子育て」

個人発表<グループ B>: CLA 棟 3 階 2302

座長:大橋史恵(お茶の水女子大学)

<発表者>

1. 佐伯芳子(和光大学)
「移住家事労働者の実情—東京で働くフィリピン出身女性に注目して」
2. 劉楠(山梨英和大学)
「高学歴移民女性のメンタルヘルス: 子の発達障害と産後うつを回復する狭間で」
3. 牛夢婷(横浜国立大学都市イノベーション学府博士後期課程)
「家族における「セクシュアリティ教育」の実態に関する社会文化的考察—中国若者の語りの分析から」
4. 王奕婷(福岡女子大学)
「中国女尊小説に見る女性の欲望に関する考察—晋江文学城を例に」

個人発表<グループ C>: CLA 棟 4 階 2404

座長: 田中雅子(上智大学)

<発表者>

1. 高篠仁奈(立命館大学)
Human Trafficking in High-Risk Regions of Nepal: Case Study of Student Perceptions and NGO Initiatives
2. 藤掛洋子(横浜国立大学)
「フェミニスト人類学とジェンダーと開発学に存在するアポリアを超えて——パラグアイ農村部で展開する国際協力の事例より」
3. 児玉谷レミ(一橋大学大学院社会学研究科ジュニアフェロー)
「サイバー戦の台頭が自衛隊内部の男性性にもたらす影響—自衛官の職種の解釈に着目して」

個人発表<グループ D>: CLA 棟 4 階 2405

座長: 福永玄弥(東京大学)

<発表者>

1. 二見優心(上智大学大学院総合人間科学研究科社会学専攻)
「ホモソーシャルリティとトランスジェンダー—女性を割り当てられた当事者の、相互行為における『男性』の位置取りの経験から」
2. 方璽正(東京大学大学院学際情報学府)、島崎美空(東京大学大学院新領域創成科学研究科)、
武藤香織(東京大学医科学研究所)
「同性愛の脱病理化に対する再考— 現代中国における転向療法を事例に—」
3. 于寧(東京大学教養学部附属教養教育高度化機構)
「『クエア・サイノフォン』概念と中国本土のクエア研究について」
4. 岡田玖美子(奈良女子大学)
「継続利用者からみた『生活の息継ぎ』の場としての常設 LGBTQ センター——大阪の X でのフォーカス・グループ・ディスカッションから——」

総会(12:10-13:20) キダーホール(会員のみ)

個人発表 II

10月4日(土) 13:35-15:35

CLA 棟 3 階: E 2301、F 2302

CLA 棟 4 階: G 2404

個人発表<グループ E>: CLA 棟 3 階 2301

座長: 天童睦子(宮城学院女子大学)

<発表者>

1. 木村育恵(北海道教育大学)、河野銀子(九州大学)、田口久美子(和洋女子大学)、池上徹(関西福祉科学大学)、高野良子(植草学園大学名誉教授)、井上いずみ(公立学校教員)、酒井秀翔(東京大学大学院)、小林咲嬉(お茶の水女子大学大学院)

「特別支援学校教員における性別職務分離—インタビュー調査の分析から—」

2. 中山まき子(同志社女子大学名誉教授)

「高等教育機関における「ジェンダー教育・研究」の道のり—1960年代から2024年現在まで—」

3. 中野円佳(東京大学多様性包摂共創センター)

「国立大学の女性限定公募の課題と当事者の評価: 10大学でのインタビュー調査から」

4. 尾曲美香(神戸大学女性リーダー育成推進室)

「女性研究者支援政策における『女性リーダー育成』の位置づけとその変化」

個人発表<グループ F>: CLA 棟 3 階 2302

座長: 高馬京子(明治大学)

<発表者>

1. 江鋭孺(東京大学大学院学際情報学府博士課程)

「男性に構築された女性の『恋愛の自由』: 1915年から1925年の『婦女雑誌』を分析対象に」

2. 金秀玟(大阪公立大学)

「体験としての『不在』: 金ジナ監督の『VR三部作』における身体表象と情動」

3. 五十嵐舞(新潟県立大学)

「少女マンガ・女性向けマンガにおける恋愛と年齢の表象」

4. 宮川円(一橋大学社会学研究科)

「女子少年院におけるジェンダー表象の変遷—レース編の言説を中心として—」

個人発表<グループG>: CLA棟4階2404

座長:大野聖良(お茶の水女子大学)

<発表者>

1. 唐井梓(お茶の水女子大学)
「商業セックスをめぐる立法の矛盾についてのフェミニスト分析: 売春防止法の性道徳規範に着目して」
2. 浅野恵里奈(横浜国立大学大学院)
「若年女性における「理想的ではない」女性像—F女子大学大学祭での元セックスワーカー登壇に対する反響から—」
3. 邹依林(実践女子大学)
「一人っ子政策に奪われた身体—中国50代60代女性のSRHRと一人っ子政策下の避妊・中絶経験」
4. 根岸弓(横浜市立大学)
「新生児殺における妊娠の意味—社会的排除概念から—」

シンポジウムI

2025年10月4日(土)15:45-17:45 キダーホール
「日本で考えるフェミニズムとコロニアリティ」

近年、日本を含め世界の多くの地域において、近代以降の世界において不可視化・抑圧されてきた立場／視角からの既存のフェミニズムに対する異議申し立てや、それに基いた議論が再び活性化している。本シンポジウムでは、フェミニズムに内在する植民地性を現代的状況において考察する上で重要な概念の整理を共有したうえで、日本の文脈からフェミニズムと植民地性について改めて考えることを目的とする。日本という場において実践され・語られるフェミニズムと植民地性の現在に関する事例を共有することを通じて、日本におけるフェミニズムの脱植民地化(decolonizing)への方途を探りたい。

・司会:土野瑞穂(明星大学・会員)

・登壇者:

中村雪子(お茶の水女子大学・会員)

「趣旨説明」

李垂姣(宇都宮大学・会員)

「在日中国人フェミニストとアクティビズム」

鳥山純子(立命館大学・会員)

「『帝国』視点から考える第三世界フェミニズム——『イスラーム・ジェンダー学科研』を事例に」

瀬戸徐映里奈さん(近畿大学・非会員)

「食卓の向こうから部落フェミニズムを紡ぐ」

・ディスカッサント: 金友子(立命館大学・非会員)

・主催:国際ジェンダー学会「開発とジェンダー」分科会

懇親会(要申込)

10月4日(土)18:00~19:00 学生食堂「アンデレ」

2日目:10月5日(日)ラウンドテーブル

10月5日(日)13:00~15:30

CLA棟3階 ①2301、②2302、③2304、④2305、⑤2306

CLA棟4階 ⑥2403、⑦2404、⑧2405

ラウンドテーブルディスカッション①:CLA棟3階2301

「メディアとジェンダー研究の軌跡を辿る」

企画・司会:田中洋美(明治大学)、小林直美(愛知工科大学)、花野泰子(東京女子大学)

話題提供者:村松泰子(東京学芸大学名誉教授)、国広陽子(武蔵大学名誉教授、元東京女子大学教授)、
小林直美(愛知工科大学)

ラウンドテーブルディスカッション②:CLA棟3階2302

「女子大学におけるジェンダー研究センターの意義と役割——その可能性と課題」

企画・司会:藤巻光浩(フェリス女学院大学)

話題提供者:天童睦子(宮城学院女子大学)、濱口壽子(聖心女子大学)、鶴岡希美(フェリス女学院大学院生)

応答者:田口久美子(和洋女子大学)

ラウンドテーブルディスカッション③:CLA棟3階2304

「脱植民地化に開かれたクィア研究のために」

企画:福永玄弥(東京大学)

話題提供:保井啓志(同志社大学)・福永玄弥(東京大学)

司会:鳥山純子(立命館大学)

ラウンドテーブルディスカッション④:CLA棟3階2305

「『現在の職に就くまで』に公募戦線で意識したことや書類作成上の創意工夫について」

企画:齋藤圭介(岡山大学)、高口僚太郎(長岡技術科学大学)=若手支援WG

話題提供:齋藤圭介(岡山大学)、高橋香苗(名城大学)、幅崎麻紀子(アール医療専門職大学)、樋熊亜衣(筑波大学)

指定討論者:柘植 あづみ(明治学院大学)

司会:高口 僚太郎(長岡技術科学大学)

ラウンドテーブルディスカッション⑤：CLA棟3階2306

「タイというフィールドから『ケア』について考える」

企画：江藤双恵（獨協大学）

話題提供：江藤双恵（獨協大学）、齋藤百合子（大東文化大学）、木曾恵子（宮城学院女子大学）

コメンテーター：阿部貴美子（実践女子大学）

ラウンドテーブルディスカッション⑥：CLA棟4階2403

「エコフェミニズム再考／再興——今日における意義とその実践を問い直す」

企画：佐野敦子（静岡大学）

話題提供：森田系太郎（立教大学）、菊地栄（立教大学）

司会：萩原なつ子（国立女性教育会館）

ラウンドテーブルディスカッション⑦：CLA棟4階2404

「世間からみるジェンダー ——生活改善運動と地域のつきあい」

企画・司会：上村協子（東京農工大学）

話題提供：土屋匠平（一橋大学）、金杉範子（JAWW 日本女性監視機構）、奈良玲子（和洋女子大学）

上村協子（東京農工大学）

ラウンドテーブルディスカッション⑧：CLA棟4階2405

「論文フォーラム——ポストジェンダーと開発の視点から」

企画・司会：藤掛洋子（横浜国立大学）

話題提供：藤掛洋子（横浜国立大学）、Contrera Ibuki Sakura Amanda（横浜国立大学大学院）

橋口奈奈穂（横浜国立大学大学院）、趙冠農（横浜国立大学大学院）、任賀瑩（横浜国立大学大学院）

Barboza Gutierrez María Auxiliadora（横浜国立大学大学院）

コメンテーター：大橋史恵（お茶の水女子大学）、池田恵子（静岡大学）

2025年10月5日(日)15:45-17:45 キダーホール 「<老いる主体>としての移住女性と日本社会」

日本社会における高齢化と移住者の関係は、しばしば移住ケア労働者への需要の高まりとして議論されてきた。また、ジェンダーの視点から高齢化をとらえようとするとき、高齢「日本人」単身女性の貧困化・孤立化などが問題視される一方で、ホスト社会を生産領域・再生産領域の両面で支え続けてきた移住女性の滞在の長期化や高齢化は、ほとんど注目されることはなく、不可視化されている。

本シンポジウムでは、日本で働き、暮らす移住女性が、自身の高齢期を迎える中でそれぞれどのような課題に直面し、またそれを個人的・集合的にどのように乗り越えようとしているのかを、実証研究および現場での実践から明らかにすることを目的とする。彼女たちの経験から導かれる課題と実践は、日本社会において高齢期を生きる「多様な女性たち」を取り巻く共通の課題を映し出すものでもある。植民地期から現在まで世代を重ねてきた在日コリアンの女性たちだけでなく、DVや家族問題を乗り越えてきたタイやフィリピン出身女性たちの中にも、現在高齢期を迎えている人たちが増えている。

来日の経緯や移住のプロセス、コミュニティのあり方の相違は、こうした移住女性の複層的な「古い」の局面においてどのような課題とそれへの取組みを生み出しているのだろうか。また、高齢期を迎える彼女たちの間には、どのような連帯と抵抗の実践が生まれているのだろうか。

本シンポジウムを通して、あらためて移民社会日本のあり方をジェンダーとライフサイクルの視点から考え、「国際移動とジェンダー」という研究領域の深化も目指していきたい。

・司会:小ヶ谷千穂(フェリス女学院大学・会員)

・登壇者:

徐阿貴(福岡女子大学・会員)

「抵抗としてのケア実践——在日コリアン生活支援事業にみる運動的性格」

新倉久乃(和光大学・会員)

「在日タイ女性の高齢期への備え——日本人の妻としての定住と社会保障」

レニー・トレンティーノ(カラカサン 移住女性のためのエンパワメントセンター・非会員)

“Aging Filipino Women as Experienced at Kalakasan”

伊藤るり(一橋大学名誉教授・会員)

「日仏のフィリピン人移住女性が邂逅する演劇ワークショップ——“互酬的ケア”を紡ぎ出す空間」

・ディスカッサント:定松文(静岡大学・会員)

・共催:国際ジェンダー学会「国際移動とジェンダー (IMAGE)」分科会、国際移動とジェンダー (IMAGE) 科研 (課題番号 23K25585)

大会参加者の皆様へ

1. 大会参加および参加費・懇親会費のお支払いについて

- ・ 国際ジェンダー学会会員(一般): 2,000 円
- ・ 国際ジェンダー学会会員(学生): 無料

- ・ 非会員(一般): 3,000 円
 - ・ 非会員(学生): 2,000 円
 - ・ 懇親会(一般): 3,000 円
 - ・ 懇親会(学生): 1,500 円
- ※ 学生の方は、受付時に学生証をご提示ください。

大会・懇親会への参加申し込みは、**9月20日(土)までに**ページ下記より手続きをして下さい。(※コンビニ/ATM 払いの場合は **9/19(金)までに**お申し込みしてください)。

<https://isgs2025a.peatix.com>

*大会当日の参加は受け付けません。必ず期日までに上記よりお申し込みください。



参加申込 QR コード

*参加費の領収書は Peatix 上で発行されます。チケットお申し込み完了後、注文履歴画面またはお申込み詳細メールから領収データにアクセスしてください。アクセス方法は <https://help-attendee.peatix.com/ja-JP/support/solutions/articles/44001821741> からご確認ください。

*詳細な領収書が必要な方は、当日受付にお申し出ください。手書きで発行いたします。

*領収書についてご不明な点がありましたら、学会大会会計専用アドレス (isgs.taikai.kaikei@gmail.com) にご連絡ください。

2. 保育支援

小さなお子さんをもつ会員の大会参加を支援するため、大会参加のために一時保育を利用された場合に、会員一人当たり 5000 円の補助を行うこととしました。希望される方は、以下の方法で手続きください。

※料金が 5000 円未満になる場合の補助は適用されません。

※非会員には適用されませんが、申込時までに入会手続きを済ませた場合は、利用可能です。

① 保育について

保育業者: NPO 法人はぐっと 出張型保育コアラ

<http://www.hugood.jp/publics/index/8/>

★保育場所: フェリス女学院大学緑園キャンパス内

★利用時間

10月4日(土) 9時30分～17時 (17時以降は時間外料金となります)

10月5日(日) 12時30分～17時 (17時以降は時間外料金となります)

対象 0歳から

★料金

土・日・祝日 1800円/時間

土・日・祝日時間外 2000円/時間

交通費 実費

- ・保育者一人に対しての料金です。
- ・お子様の人数・年齢により、保育者の人数が異なります。
- ・キャンセル料…前日までは発生しません。

当日は1時間分の保育料金と場合により交通費をいただきます。

② 申し込み方法:8月25日(月)までに、

保育担当、石黒真里(marishi@soc.meijigakuinn.ac.jp)まで下記についてメールで申し込んでください。

折り返し詳細については個別にご連絡をして手続きを進めていきます。

メール件名は【大会保育希望】としてください。

1. 保育利用日
2. 保育時間 (〇時～〇時)
3. お子さんの年齢・性別

保育についてご不明な点は、大会保育担当 石黒真里(marishi@soc.meijigakuin.ac.jp)までお問合せください。

書籍等の販売について

以下の2通りの方法があります。

- 1) 出版社の方に来ていただいて指定の場所で販売いただく。
- 2) 会員個人が書籍を販売する。

いずれの場合も実行委員会では、書籍の見守り、売り上げ代金とおつりの管理をすることはできません。出版社またはご自身で本の搬入や管理が可能であるという方に場所(CLA棟2階ウェルカムセンター)を提供するという形をとります。販売を希望される方は、**9月20日までに**、両方のアドレスに①上記1)、2)のどちらに該当するか、②会員の場合は氏名 ③連絡先(当日連絡のつく電話番号)をメールにてご連絡ください。

小ヶ谷千穂(ogaya_chiho@ferris.ac.jp)

平野恵子(hirano-keiko-ng@ynu.ac.jp)

大会事務局

お問い合わせは下記までお願いいたします。

大会実行委員長 小ヶ谷千穂(フェリス女学院大学) : ogaya_chiho@ferris.ac.jp

平野恵子(横浜国立大学) : hirano-keiko-ng@ynu.ac.jp

大会実行委員

中村雪子、大野恵理、土野瑞穂、横山美和、田口久美子、関根里奈子、孟令齐、笹川あゆみ、新倉久乃、木曾恵子、太田麻希子、陳予茜、石黒眞里、高口僚太郎、澤田佳世、浅野恵里奈、宮澤恵実、山根純佳(研究担当理事)